

コロナウィルス感染症の拡大防止のため、本催しは中止となりました(2020/2/27)

2019 年度第 5 回支部集会【関西支部】

2020 年 3 月 14 日(土)10:00-17:00(受付開始 9:30)
 関西大学 千里山キャンパス 第2学舎2号館 2階・3階
 主催:公益社団法人日本語教育学会 共催:関西大学

住所: 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号 (代表電話:06-6368-1121)

交通アクセス: https://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/access_senri.html

キャンパスマップ: <https://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/mapsenri.html>

参加費: 1,000 円(マイページ事前参加登録にてお支払いください)

※ご参加予定の方は、[学会ウェブサイトのマイページ](#) から 3 月 12 日(木)までに事前参加登録をお願いいたします。事前予約の方法について詳しくは [こちら](#) をご覧ください。会場に余裕がある場合、会場での当日参加も受け付けますが配布資料等は足りなくなる場合があります。

※今回は一斉の昼食休憩時間はありません。昼食はご持参されることをおすすめします。

◆支部集会日程◆

9:30	受付開始 賛助会員ブース(書籍展示等)	【3 階 C303 教室前】 【2 階 C205 教室】
10:00-10:15	開会式	【3 階 C304 教室】
10:20-11:50	交流ひろば	第 1 会場①②③【2 階 C204 教室】 第 2 会場④⑤⑥【3 階 C301 教室】 第 3 会場⑦⑧【3 階 C302 教室】
12:00-13:00	チャレンジ支援委員会「発表応募支援セミナー & 個別相談」	【3 階 C304 教室】
12:00-13:30	ポスター発表	第 1 会場①②③【3 階 C301 教室】 第 2 会場④⑤【3 階 C302 教室】
13:45-14:50	口頭発表	①② 【3 階 C304 教室】
15:00-16:50	パネルディスカッション	【3 階 C304 教室】
16:50-17:00	閉会式	【3 階 C304 教室】

【10:00-10:15】 開会式

会場: 3 階 C304 教室



【10:20-11:50】 交流ひろば(第1会場)

会場: 2階 C204 教室

① 地域日本語教育のための基本カタカナ語について

平田史織(香川大学大学院修了生)・山下直子(香川大学)

私たちは生活の中のカタカナ語に着目し、外国人生活者が接触することの多いカタカナ語について研究しています。今後は、地域日本語教室等で使用できるようなカタカナ語教材の開発をめざしています。ご興味のある方は、ぜひお越しください。

② UD教科書体が日本語学習者に与える教育的支援の可能性

岩崎千恵(長崎短期大学)

本年度は留学生のリテラシー向上を目的とした授業研究を進めています。UD教科書体の教育的有効性はあるものの、その有効性に関して学術的に調査を始めました。教育・支援現場で同じような問題意識を持っている方と一緒に考えていきたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

③ オンラインコース「伝統文化入門コース」の紹介と活用方法の提案

北口信幸(国際交流基金関西国際センター)・東健太郎(同)

「華道A1自習コース」は2018年12月、「書道A1自習コース」は2020年3月に日本語学習プラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」に開講した自習コースです。各コースは、華道・書道の基本的な知識を学んで、受講者が体験できるよう構成されています。当日はコースの内容を紹介し、教育現場でどのように活用できるか、みなさんと情報交換ができればと思います。

【10:20-11:50】 交流ひろば(第2会場)

会場: 3階 C301 教室

④ 学びに難しさを抱える日本語学習者への支援を考える

武田知子(国際基督教大学)・保坂明香(同)

なかなか学習が進まない、スケジュール管理が苦手で提出物が遅れがち、場に合わない行動をとってしまう、そのような学習者に対し日本語教員としてどのように支援をすればいいのでしょうか。学びに難しさがある学習者への支援実践例を元に、支援方法を一緒に検討していけたらと考えております。興味のある方はぜひお越しください。

⑤ 学生満足度向上のためのライブ授業配信システムの開発・改善

—日本語教員養成講座での授業を例として—

加藤恵梨(大手前大学)・西尾信大(同)・辻井美奈(同)・水田猛(株式会社アップ)

大手前大学通信教育課程日本語教員養成講座では、遠隔同時双方向性授業において、テキストチャットやレスポンスボタンを設けています。当日は、それらの機能の大学教育としての妥当性や使い勝手などについて、実演を通じて意見の交換を行いたいと考えています。ご興味のある方は是非お越しください。

⑥ AJ Can-doリストに準拠した初級向けスライド教材と教師用リソース試案の紹介

藤森弘子(東京外国語大学)・前田真紀(同)

初級クラスの授業で、なかなか学生が集中してくれない、授業にメリハリがないなど困ったことはありませんか。私たちは初級レベルの学習者に教える際に便利な「スライド教材」や「タスク活動のコツ」を作成中です。ひろばでは試用版をご紹介します。皆さんからご意見をうかがいたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。



【10:20-11:50】 交流ひろば(第3会場)

会場: 3階 C302教室

⑦ 「土曜の会」がめざすもの—「土曜の会」の組織としての変遷をもとに

宮本敬太(グットハーモニー協同組合)・小出寿彦(東京福祉大学)

浅津嘉之(関西学院大学)・友宗朋美(関西外国語大学)

「土曜の会」は、立場の違いを超えて関西で言語教育に携わる者が議論する場の形成をめざして、教員有志によって立ち上げられた研究会です。読書会と会員による実践報告を軸として、2016年5月から毎月一回土曜日に開催されており、多様な現場で教育に携わる者が参加しています。本ブースでは、活動内容を紹介し、「組織」をテーマに意見交換を行うことで、参加者間での交流を図ります。

⑧ 防災学習から生活日本語の習得につなげる日本語教育

—生活者としての外国人が安心・安全に暮らすために—

元木佳江(四国大学)・ワイス美江(同)

私たちは留学生とともに防災意識を高めることを目的に、被災後の生活における「食」と「健康」を中心とした学習に取り組んでいます。今までの取り組みをご紹介します。取り組みの意義や今後の展開について皆さんのご意見を伺いながら交流したいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

【12:00-13:00】 チャレンジ支援委員会

発表応募支援セミナー&個別相談会

会場: 3階 C304 教室

◆発表応募支援セミナー

「そろそろ何か発表してみたいけど、どうやったらいいの?」「応募したけど不採用だったのは、何がいけなかったの?」。そんな皆さんを支援するのも「チャレンジ支援委員会」の使命です!今回は支部集会にお邪魔して「発表応募支援セミナー」を行います。

◆個別相談会

「おせっかい侍」が応募書類のチェックやみなさんの研究スタートアップのお悩みについて個別に相談に応じます。支部集会・大会の発表応募書類のチェックをご希望される方は、[学会ウェブサイト支部集会ページ](#)にある発表応募提出様式の「様式(A)応募者情報シート」「様式(B)査読用要旨」をご持参ください。

※前半のセミナーに引き続き、後半は任意で個別相談に応じます。

少しでも発表をお考えの方も、これからという方も、ぜひこの機会をご利用ください!



【12:00-13:30】ポスター発表(第1会場)

会場: 3階 C301教室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.6~7, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

- ① JFL 中国人日本語学習者の依頼メールに関する語用論的能力の習得
—日本語能力試験 N2, N1 合格者を対象に—
孫雨晴 (大阪大学大学院生)
- ② 読解能力を適正に測れる設問とは
—効果的なプレースメントテストを目指して—
白鳥文子 (京都外国語大学)・大谷つかさ (同)・篠原みゆき (同)
- ③ アカデミックな日本語能力の養成を目指した教材開発
小林潔子 (立命館大学)・岩堀容子 (京都外国語専門学校)

【12:00-13:30】ポスター発表(第2会場)

会場: 3階 C302教室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.7~8, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

- ④ 初級学習者を対象としたブログ作成プロジェクトの実践
—「書く」ことを通して教室外とつながる—
中岡樹里 (関西学院大学)
- ⑤ 中級用言い換え練習教材の開発—話し言葉を使ったわかりやすいプレゼンのために—
坂井美恵子 (大分大学)・金森由美 (同)・中溝朋子 (山口大学)

【①13:45-14:15/②14:20-14:50】口頭発表

会場: 3階 C304教室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.8~9, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

- ① 従属節主語に現れる「が」と先行文脈に既出の対象を表す「は」を中心とした
「は」「が」の使い分け習得に関する調査—使い分け指導の前後を比較して—
豊田真規 (神戸市外国語大学)
- ② 日本語インタビューテストにおけるターン受取後の「考えている」表現の分析
—学習者のレベル別差異とその特徴—
西部由佳 (早稲田大学)・岩佐詩子 (桜美林大学)・金庭久美子 (立教大学)
坂井菜緒 (武蔵大学)・萩原孝恵 (山梨県立大学)・奥村圭子 (山梨大学)



【15:00-16:50】 パネルディスカッション

会場： 3 階 C304 教室

「日本語教師養成における『教育観』の育成」

ファシリテーター：金田智子（学習院大学）

パネリスト：新矢麻紀子（大阪産業大学）

杉本香（日本語教師教育者ネットワーク・大阪樟蔭女子大学）

岡本牧子（大阪YWCA専門学校）

平成30年に文化庁文化審議会国語分科会より「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」が、翌平成31年にはその改訂版が出されました。その中では、日本語教育人材に求められる資質・能力が「知識」「技能」「態度」に分けて明記されています。この報告に基づき、現在、日本語教育人材の養成プログラムはカリキュラムの改編が進められています。「知識」「技能」に加えて、「態度」を養成するとはどのようなものでしょうか。カリキュラム上どう盛り込めばいいのでしょうか。教師の「態度」とは、日本語教育の意義や役割、可能性といった「教育観」に根ざすものと考えられます。そもそも私たちはどのような「教育観」に基づき、日々の活動の中でどんな「態度」で学習者に接しているのでしょうか。

日本語教育に携わる私たちはともに次世代の日本語教師を育てる立場にあると言えます。このパネルディスカッションが私たち一人ひとりの「教育観」や「態度」を振り返り、次世代の日本語教育および教師像を考える機会になればと思います。

ファシリテーターとして文化審議会国語分科会日本語教育小委員会の委員を務めておられる金田智子氏をお招きし、パネリストとして「コミュニティ型日本語教育」に向けた養成プログラムに携わっておられる新矢麻紀子氏、大学の養成プログラムに携わる日本語教師教育者ネットワークより杉本香氏、一般向けの養成プログラムに携わる岡本牧子氏にご登壇いただき、それぞれの養成プログラムの概要と「教育観」養成についてのお考えをうかがいます。

【16:50-17:00】 閉会式

会場： 3 階 C304 教室

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F

TEL: 03-3262-4291 FAX: 03-5216-7552 E-mail: shibu@nkg.or.jp



〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14）ポスター発表①〕

JFL 中国人日本語学習者の依頼メールに関する語用論的能力の習得

－日本語能力試験 N2，N1 合格者を対象に－

孫雨晴

本研究は習熟度が異なる学習者が使用する依頼メールの外的修正ストラテジーに違いがあるのか、また、日本語母語話者との違いを考察した。今回の調査では JFL 環境にいる JLPT-N2，N1 中国人日本語学習者各 51，53 名，日本語母語話者 53 名を対象にし、「授業担当教員」に「授業中に使った資料を送ってもらおう」という「負担度が小さい」タスクを設定し、依頼メールを書いてもらった。その後計 157 通のメールを先行研究に沿って設定した外的修正のカテゴリーで分析した。全体の使用頻度から見れば、N2 学習者は N1 学習者及び日本語母語話者よりも有意に使用が少なく、N1 学習者と日本語母語話者の間に有意差がないとの結果が示された。個別の外的修正ストラテジーの使用に関する違いを分析した結果、N1・N2 レベルにおいて、個別のストラテジーの使用頻度と使用種類に関しては、日本語母語話者と有意差がないものもあれば、母語話者と有意差が確認されたものも見られた。

（大阪大学大学院生）

〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14）ポスター発表②〕

読解能力を適正に測れる設問とは

－効果的なプレースメントテストを目指して－

白鳥文子・大谷つかさ・篠原みゆき

読解試験において、設問が解答に影響を与えているのではないかという仮説のもと、より理解度が正確に測れる設問作成を目指し、設問と解答に関する調査を行った。調査では、設問を、認知処理レベル（上位，下位）、問の内容（文章全体のテーマ，文章構造，事実を問う，照応形）、設問形式（記述式，選択式）の 3 つの観点から作成した。中級レベルの漢字圏，非漢字圏，ベトナム語母語の学習者計 16 名に、読解試験，再話とインタビューによる理解度測定を行い、理解度と解答との関係を分析した結果、以下が明らかとなった。

- ①設問形式では、選択式の方が「理解せずに正答している」割合が高い。
- ②認知処理レベルでは、上位処理の文章全体の理解を問う設問は、理解度を正確に測れる可能性がある。
- ③問の内容ごとの正答率は、学習者特性による違いがある。
- ④文章の全体も部分も理解できていない場合でも、補償ストラテジー，社会文化能力のみで正答することがある。



〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14）ポスター発表③〕

アカデミックな日本語能力の養成を目指した教材開発

小林潔子・岩堀容子

大学の学部留学生が求められるアカデミックスキルを身につけることを狙い、教材を開発した。この教材はノートをとるスキル、また講義の内容を理解しまとめるスキルを身につけることを目標とした教材である。

現在、「アカデミック・ジャパニーズ」の習得を目指した教材が数多く開発され、市販されているが、それらの教科書で扱われている話題や内容は各学部の分野に一致するとは限らず、自身の大学での学びに即時に応用できるとは限らないという現状がある。そこで、ある学部の特化した教材で学べば、留学生にとってもより効率よく、高いモチベーションを保ちながら、アカデミックスキルが身に付けられるのではないかと考え、開発に至った。

本教材は実際の講義を教材化しており、生の講義で学べる教材である。また同時にこの教材が留学生を受け入れる学部の教員にも留学生にどのような日本語能力が求められるのかを示せるものになるのではないかと期待する。

(小林—立命館大学，岩堀—京都外国語専門学校)

〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14）ポスター発表④〕

初級学習者を対象としたブログ作成プロジェクトの実践

—「書く」ことを通して教室外とつながる—

中岡樹里

本発表では、初級学習者（交換留学生）を対象に行ったブログ作成プロジェクトの実践報告を通し、初級学習者を対象とした、オーセンティックな「書く」活動の可能性を示す。

本実践は、①オーセンティックな「書く」活動を行い、教室外に発信すること、②相互行為を通じた教室外とのつながりを創出すること、の 2 点を目指して行った。読み手は、実践を行った大学へ留学予定の学生とした。作成したブログには 8 名の学習者による計 52 本の記事が投稿された。ブログは来日予定・来日直後の学生に実際に紹介され、一定のアクセスを得た。

今回の実践で目指した上記の 2 点のうち、②については、想定読者とのコメント欄を通じたつながりの創出に至らなかったという点で課題が残されたものの、初級学習者を対象とした書く活動においても、経験を生かした身近なトピックであれば、十分に教室外への発信を目指したオーセンティックな活動が可能であることが示された。



〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14）ポスター発表⑤〕

中級用言い換え練習教材の開発

—話し言葉を使ったわかりやすいプレゼンのために—

坂井美恵子・金森由美・中溝朋子

近年アクティブラーニングが重視される中、スピーチやプレゼンテーション（以下プレゼン）の指導は日本語教育においても重要な分野である。しかし、特に漢字圏の学習者がプレゼンを行う際に、「記憶力を増進する」など、書き言葉である漢語を多く使用する傾向がある。そこで、漢語から和語への言い換えなど、プレゼンにふさわしい語への言い換え練習ができる中級レベル用 e-learning 教材を開発することにした。まず、中級レベルの学習者の実際のプレゼンを文字起こしし、不適切な語を教員三名で抽出した。それに加え、『実践日本語教育スタンダード』からも漢語動詞を約 500 語採用した。出題形式は「明確な違いがある。→はっきりとした」のように、下線部の言い換えを入力するものである。このような練習を通して表現の多様性を学び、語彙や表現の習熟度に差がある学習者間でも理解しやすい、聞き手に配慮した語の選択ができるようになることを目指す。

(坂井・金森一大分大学，中溝一山口大学)

〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14）口頭発表①〕

従属節主語に現れる「が」と先行文脈に既出の対象を表す「は」を中心とした

「は」「が」の使い分け習得に関する調査

—使い分け指導の前後を比較して—

豊田 真規

本調査の目的は、日本語中級学習者の従属節における主語「が」と、先行文脈に既出の対象を表す（既知の）「は」の習得状況を確認し、これら助詞の指導の参考点を把握することである。調査では、前述の「は」「が」について、用法の説明前、直後、その一か月後と計 3 回の穴埋め式クイズを実施し、正答率やテストごとの総得点との相関係数を求めた。また、3 回目のクイズ後にインタビューを行い、誤答、および正答についての説明を求めた。その結果、1 回目と 3 回目のクイズでは正答率に変化があり、また相関関係が認められたこと、インタビューから、「は」の中で特殊な場合に誤答が起きやすいようであること、正答だが説明が理にかなっていない場合があること、独自の解釈と新たな説明との間で混乱が起きている例があることが判明した。ここから、用法の説明を繰り返すことが望ましいことがわかる。また、「は」「が」の練習問題作成のヒントが得られた。



〔2019 年度第 5 回支部集会（関西大学，2020. 3. 14） 口頭発表②〕

日本語インタビューテストにおけるターン受取後の「考えている」表現の分析

—学習者のレベル別差異とその特徴—

西部由佳・岩佐詩子・金庭久美子・坂井菜緒・萩原孝恵・奥村圭子

本研究の目的は、日本語インタビューテストにおけるターン受取後から実質的返答を行うまでの「考えている」表現を分析し、学習者のレベル別差異とその特徴を明らかにすることである。データとして国立国語研究所「日本語学習者会話データベース」より中国語を母語とする初級-上，中級-上，上級-上の日本語学習者各 2 名と超級 1 名，計 7 名の OPI データを用いた。分析の結果，初級では「あー」などの単独の音が，中級では質問の一部のくり返しや「えっと」などが多くみられた。一方，上級や超級では，相手に配慮した表現（「あの」），相手の発話内容との関連性を示す表現（「それは」「やはり」など），質問に対する態度を言葉で示す表現（「難しい」など）が観察された。このことから，初級や中級では質問への答えの準備ができていないことを示すのみであったが，上級や超級は相手の発話を意識した表現を用いて考えていることを示すことが明らかとなった。

(西部—早稲田大学，岩佐—桜美林大学，金庭—立教大学，
坂井—武蔵大学，萩原—山梨県立大学，奥村—山梨大学)

